

雪解けが遅い年の育苗管理は ちょっとした気配りが重要です！

J A たきかわ営農部
空知東部地区農業改良普及センター

1. 苗八分作！

高品質米に直結
近年、成苗ポット苗の「ほしのゆめ」を中心に、育苗後半の高温管理が要因の早期異常出穂による収量・品質低下のほ場が目立ちます。

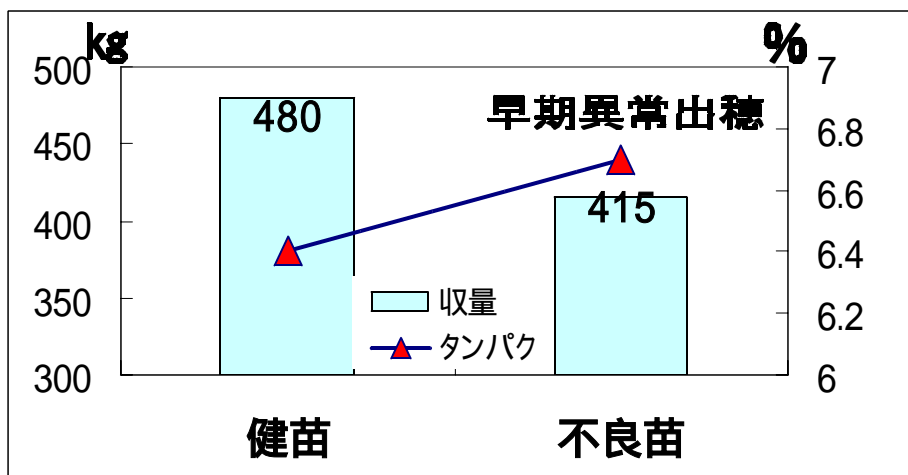


図 苗質別の収量・タンパク (2004.赤平市.ほしのゆめ)

2. 移植時期に応じた、適期は種で、老化苗を防ぐ！

育苗日数の延長は、老化苗による初期生育不良、早期異常出穂につながる恐れがあります。

3. 置床は十分乾かして、丁寧に耕起・砕土を実施しよう！

乾きが悪い置床をムリに耕起すると、砕土性が悪くなり、箱と土壌表面が密着せず、生育の不揃い、水分不足による枯死が発生しやすくなります。

4. 置床の地温上昇対策！

今年は雪解けが遅く、気温・地温も低いので、ポット苗、型枠苗は置床の地温を上げる対策を工夫しましょう。(は種前に古いビニールをべた掛け)

5. 出芽温度が確保しやすい二重被覆、二重トンネルを！

は種後、低温が続く場合は出芽に適した 30 ~ 32 度の地温が困難なため、シルバーポリ 1 枚だけでは無く、二重被覆、二重トンネルを設置しましょう。